

## 鈴木均博士からの評価コメント

評価者：鈴木 均博士（日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所 新領域研究センター、国際関係・紛争研究グループ グループ長代理）

方法：面談方式（参加者：内海グローバル協力センター長、桑名客員研究員）

内海グローバル協力センター長より、事業計画、活動内容について説明。鈴木氏には、主に大学が国際貢献に配慮すべき点を中心に本事業に関する意見を求めた。以下、鈴木氏からのコメント。

### ・アフガニスタンにおける教育協力の意義

アフガニスタンのように、タリバンと米軍主導の多国籍軍による戦闘下で西欧的価値観に対する異議申し立ての意識が高まる中で国際支援が必要とされている状況においては、本事業で行った女性教員への研修は、近代的価値観も取り入れた教育支援の機会を提供するという意味で非常に重要であろう。本来であれば、日本における研修に加え、本国内での研修を行うことが理想であるが、治安が悪化し、本国での大学教育施設が整備されていない現在の状況では、外国での研修を行うことでも支援の意味がある。特にほとんど外に出る機会がなかった女性にとっては、日本での教育システム、女性の地位、社会環境等に触れるだけで、アフガニスタンの教育を再考するまたとない機会となり、大きな刺激を受けたであろう。現時点では短期研修でも意味があると考えられるが、状況に応じて長期にわたる支援も組み合わせながら、対応していくことが望ましい。

### ・大学の専門性、ネットワークの活用の必要性

アフガニスタン支援において、支援を検討し、実施するにあたって、歴史的、地域研究的視点を取り入れることが重要である。大学機関ならではの専門的ネットワークを活かして他機関と連携して取り組む支援が、現在のアフガニスタンが置かれている状況ではより必要性が高い。

### ・日本による支援の優位性

歴史的に中立で、軍事的支援を行っていない日本からの支援は、欧米諸国からの支援に比して、アフガニスタンの人々によって障壁が低く受け入れられやすい傾向にある。日本が行う教育支援だからこそ、インパクトが高まることが考えられる。また、教育支援は、アフガニスタン社会への日本からのメッセージとしても非常に効果的である。今後は日本の優位性を活かして、今後のアフガニスタンに避けて通ることのできないタリバンとの和解の面も含めて、先取りした支援を実施できる可能性が

ある。